

## △ポララミン錠・△シロップ [内], ◎ポララミン注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 d-クロルフェニラミン マレイン酸塩 (U) d-Chlorpheniramine Maleate 【分類】 抗ヒスタミン剤

【単位】 △2mg/錠, △0.04%シロップ [0.4mg/mL], ◎5mg/A [1mL]

【常用量】 ■内服: 2~8mg/日 ■注射: 1回 5mg

【用法】 ■内服: 分1~4 ■注射: 1日1回静注, 筋注, 皮下注

【透析患者への投与方法】 常用量 (4,10)

【その他の報告】 HD, PD とも 50%に減量 (3) HD 患者の半減期 17.5hr [iv] (1)

【PD】 半減期 11.4hr [iv] (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (10,12)

【その他の報告】 GFR<10mL/min では 50%に減量 (3) 腎不全で半減期延長 (Rumore MM: Drug Intell Clin Pharm 1984 PMID: 6383755)

【特徴】 ヒスタミン受容体に強い親和性をもち放出されたヒスタミンと競合的拮抗阻害を行い、ヒスタミン惹起の腸管・呼吸器の平滑筋収縮、血圧効果、毛細血管拡張・透過性亢進などを抑制する。抗ヒスタミン作用は強く、比較的即効性、持効性あり。TR 錠の体内動態データは少ない。

【主な副作用・毒性】 ショック、痙攣、錯乱、再生不良性貧血、無顆粒球症、光線過敏症、眠気、脱力感、せん妄、幻聴、幻視、意識障害、いらいら、構音障害、四肢の不随意運動、口渇、悪心・嘔吐、尿閉、排尿困難、鼻閉、肝機能障害、発汗異常など

【安全性に関する情報】 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させない (1)

【吸収】 80%以上 (11)

【F】 40% (14) 41% (13)

【tmax】 2hr [シロップ] (U) 【Cmax】 4mg 静注時 14.89 μg/mL (1)

【代謝】 肝で CYP2C11, CYP2B1, CYP2D6 が関与する経路で代謝 (1)

【排泄】 腎で代謝物として 24 時間以内に排泄 (U) 尿中未変化体排泄率 7%以下 (4,10) 20% (14) 0.3~26% (12,13) 尿 pH の低下で上昇する (12)

【CL】 120mL/min (10) 1.7mL/min/kg (13) 【非腎 CL/総 CL】 80% (10)

【t1/2】 α 相 15min, β 相 28hr [iv] (1) 14~25hr (U) 13~31hr (10) 20hr (13,14) 14~24hr (12) 小児で 15hr (Pathirana S, et al: J Clin Pharmacol 2018 PMID: 29136286) 【透析患者の t1/2】 延長 (10) データなし (12) PD 11.4hr, HD 17.5hr (1)

【蛋白結合率】 72% (1,U) 70% (13) 67~73% (12)

【Vd】 3.4L/kg (10,14) 1~10L/kg (11) 3.2L/kg (1,13) 2.9~3.5L/kg (12)

【MW】 390.86

【透析性】 Vd が比較的大きいため、透析で効率的には除去されにくいと思われる (10) 除去されない (1)

マキロン飲用中毒に対する DHP/HDF 施行例 (Hanji I, et al: Chudoku Kenkyu 2008 PMID: 18712075)

【TDM のポイント】 有効治療域 8~16ng/mL (16) 5~10ng/mL (14) TDM の対象にはならない

【薬物動態】 第 1 世代抗ヒスタミン薬の PK (Sharma A, et al: Curr Drug Metab 2003 PMID: 12678691)

【O/W 係数】 3.38 (11)

【相互作用】 中枢神経抑制剤と併用注意 (1) 抗コリン剤と併用注意 (1) ドロキシドパ、ノルアドレナリン: 血圧の異常上昇の可能性 (1)

【更新日】 20240930

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。